

## 所長挨拶

# 医学・医療情報を安心して享受するために

なかじま かずのり  
仲嶋 一範

(信濃町メディアセンター所長)



いきなり個人的な話で恐縮だが、私自身、学部生から研修医だった時代はキャンパスの近くで一人暮らしをしていたこともあり、信濃町メディアセンターの母体とも言える北里記念医学図書館には頻繁に通っていた。特に医学部6年生の国家試験前には、毎日書庫の決まった場所に朝から陣取って勉強し、疲れたら歩き回っているいろいろな本や雑誌を手にとって眺めながら気分転換をしていた。食事時などを除いて閉館まで滞在していたので、毎日通っていたというより、夜間以外は「住んでいた」と言った方が正しいかも知れない。

当時はインターネットがまだ使えない時代である。情報源と言ったら、テレビやラジオのように一方的に流れてくるものを除くと、活字で書かれたものにほぼ限られていた。図書館にいれば、ちょっと手を伸ばすと興味の赴くままに様々な情報に簡単に触れることができ、飽きることがなかった。

今はスマートフォンが普及し、いつでもどこでも、誰もがあらゆる情報をすぐに入手することができる時代になった。発信も容易になった分、そこには正しい情報もあれば間違った情報もあり、さらに最近ではAIによる意図しない加工が加わっているかも知れず、まさに玉石混淆の情報が氾濫している。正確な情報と間違った情報が混在していること自体は今も昔も変わらないのだが、今は特にそれを各自が意識して区別することが強く求められる時代になってきているように思う。信濃町メディアセンターの主な対象が人の健康に直結する内容であることも鑑みると、メディアセンターとしてはただ徒に広く情報を収集して供覧するのではなく、日々の研究・教育・診療に役立つ「信頼に足る」情報を提供することが、重要なミッションの一つとして従来にも増して求められるようになってきたように思う。最近急速に増えてきたいわゆるハゲタカジャーナルと呼ばれる粗悪な学術誌への対応についての支援を含め、今後特

に留意していくべき観点になろう。

大学病院を抱える信濃町キャンパスにあるメディアセンターとしては、大学の教職員や学生に限らず、病院を受診する患者さんたちへの適切な医療情報の提供も、重要なミッションの一つとなっている。インターネット上で検索すれば、さまざまな病気についてその病態、診断、治療法などの数多の情報が得られる中で、何を信用すれば良いのか、戸惑うこともあろうかと思われる。そんな患者さんたちに向けて、医学部や病院から医療や健康に関するさまざまな情報を提供する場として、健康情報ひろばと、KOMPAS (Keio Hospital Information & Patient Assistance Service) とがある。健康情報ひろばは、来院された患者さんやご家族に情報を提供する病院図書室であり、KOMPASは文字通り一般向けに情報を発信するWebサイトである。KOMPASはアクセス数が順調に伸び、月間60万件に達している。これらはいずれも信濃町メディアセンターのスタッフが中心となり、大学病院と連携して運営しているものであり、開設からもうすぐ15年になろうとしている。どのような情報がどの程度どのように活用されてきたのかを踏まえ、さらなる発展に向けて次に取るべきアクションを考えていく時期に来ているように思う。

玉石混淆の情報が氾濫している今日、それらを吟味し取捨選択することは最終的には各自に委ねられている。ただ、その判断材料を提供し、支援するのはメディアセンターの主要な役割の一つである。医学・医療に関連した特定の目的で正確な情報が必要な時に、それを迅速に漏れなく提供できる現代版のメディアセンターであるとともに、特に目的なく歩き回り、様々な文献を渉猟することによって、それまで知らなかったことを「偶然知る」楽しみを安心して享受できるメディアセンターでもあり続けたいと願っている。